

番号	研究名	研究代表者	評価
29-1	自動運転と道の駅を活用した生産空間を支える新たな道路交通施策に関する研究開発	室蘭工業大学大学院 准教授 有村 幹治	B
<p>&lt;研究の概要&gt; ※成果報告レポートより引用</p> <p>自動運転や道の駅の活用を含む「新たな道路交通施策」を実装した社会実験を実施し、その効果や社会受容性について検証を行うとともに評価モデルの開発を行い、北海道の「生産空間」に住み続けられる道路交通環境の評価・提案を行う。</p> <p>&lt;事後評価結果&gt;</p> <p>自動運転と道の駅を組み込んだ広域公共交通サービスに関する調査・社会実験を実施すると共に その効果や社会受容性について検証を行い、評価モデルを開発するなど、一定の研究成果を挙げている。しかし、研究テーマ相互の関係性に不明確な点があると共に、開発したモデルの有効性や妥当性については、更なる分析が必要であると考えられる。このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究タイトルに入っている「生産空間を支える」が研究内容の中に具体化される必要がある。生活交通だけでなく、生産にかかわる交通が道の駅と自動運転を活用することでどのように維持・進化しうるかを議論する必要がある。</li> <li>2. 自動運転導入は、本来であればコスト低減が期待できるが、冬季道路では実用化コストが過大になる危険性があることから、どのように克服するかが課題である。</li> <li>3. 現在および近い将来の北海道で起こりうる問題とその対策を総括的に扱っており、結果の有用性は高い。ただし、各々のテーマについての検討の深さが十分であったかについては、やはり疑問が残る。</li> <li>4. 北海道という寒冷地を前提としていることから致し方ない面もあるが、海外への展開可能性も考慮してもらいたかった。また、施策パッケージとして、研究成果全体を総括し、スムーズに施策を実装するとりまとめ方法が示されると、より応用可能性が広がると思われる。</li> </ol>			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第40回新道路技術会議において審議したものである。